

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(および地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

## 鯖江市地域公共交通活性化協議会 (鯖江市)

平成27年4月1日設置

令和3年12月 鯖江市地域公共交通計画 および  
鯖江市地域公共交通利便増進実施計画 策定  
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

# ◆豊かさと安心のある暮らしを支える交通環境

## 【鯖江市の概要】

人口：68,043人（R7.12.1時点）  
 鉄道：ハピラインふくい線（市内2駅）  
 福井鉄道福武線（市内6駅）  
 バス：コミュニティバス つつじバス  
 （循環線1,支線8）  
 路線バス（福井鉄道）  
 （1路線2系統）  
 ※福鉄バス福浦線廃止後、鯖浦線について利便性向上のため令和7年度増便を実施。

## 【鯖江市地域公共交通計画】

計画期間：令和4年4月～令和9年3月（5年間）

## 【目指す姿】

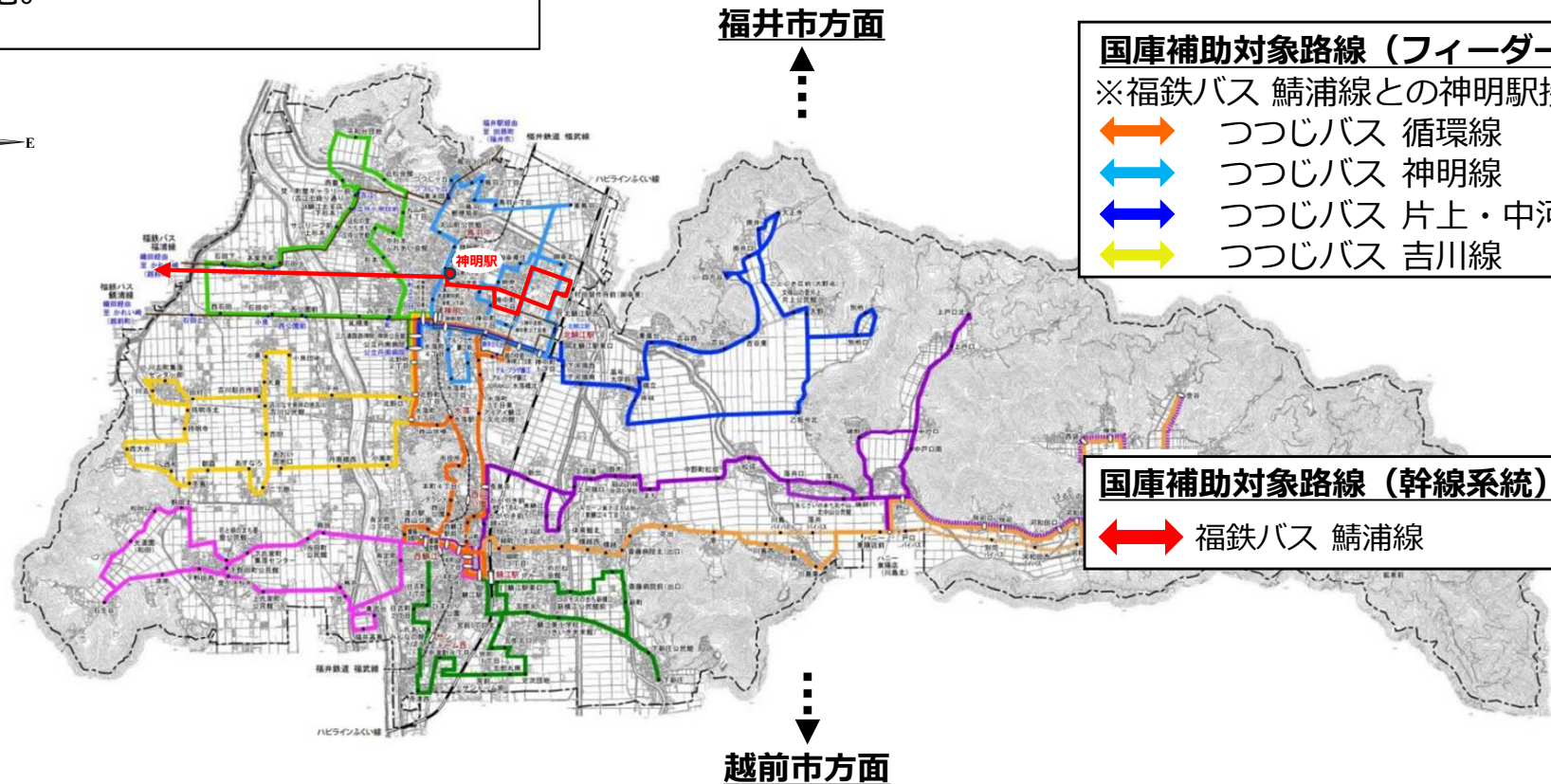
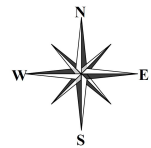
車がなくても、公共交通を利用して日常生活に必要な移動ができる

## 【計画期間内の重点事業】

つつじバスの再編/運行 ⇒ 令和4年4月実施

## 【令和7年度の方針】

利用者の利便性向上および新規利用者獲得、令和9年度ダイヤ改正に向けた検討



## 実 施 状 況

1.昨年度に行った主な取り組み① バス車両デザインの更新と新車両お披露目式の開催（新規）

- ・車両デザインを更新し、市内こども園にてお披露目式を開催。報道機関等から広く周知。
- コミュニティバスに親しみを持ってもらい、親子でのバス利用のきっかけに。

② バス停看板デザインの更新と新デザインお披露目会の開催（新規）

- ・バス停看板のデザインを鯖江高校に依頼、新デザインが完成、お披露目会を開催。
- 鯖江高校生のさらなるバス利用促進と、市民に愛されるコミュニティバスへ。

③ その他、利用者利便性向上のための新たな取り組み（新規）

- ・市内温浴施設との提携（バス利用者に施設利用料割引）や、一部区間におけるフリー降車制を実施。
- ・ノベルティグッズとしてつつじバスシールを作成しイベント時に配布。

2.今年度に行った主な取り組み④ (株)鯖江村田製作所のラッピング車両の運行（新規）

- ・新たにつつじバス車両本体の広告を募集し、村田製作所にてお披露目会を開催。
- ラッピング車両での地域企業のPRや、バスの安定的な運行を図るための収入確保。

⑤ つつじバスノベルティの作成や、イベントにてつつじバスをPR（新規）

- ・イベント等で配布、使用できるグッズ（つつじバスプルバックカー・つつじバス消しゴム）を作成。
- ・つつじバスでハピラインふくい鯖江駅と福井鉄道神明駅をつなぐイベントを開催。来場者数2,537人。
- 公共交通に対する愛着の醸成や、利用促進、バス利用のきっかけ作りの創出。

⑥ SNSを活用した情報発信や、高齢者サロンへの出前講座実施（継続）

- ・Instagramを活用したの情報発信、高齢者サロンにて利便性等の説明を実施。
- SNSを通して市や公共交通のPR、幅広い年齢層に向けたコミュニティバスへの周知。





## 具 体 的 な 内 容

④(株)鯖江村田製作所のラッピング車両の運行

車両デザインを更新



(株)鯖江村田製作所のチアリーダーロボットとレッサーパンダのキャラクター「ウルウル・メガメガ」がコラボしたかわいいデザイン



お披露目会開催



(株)鯖江村田製作所にてテープカット、ウルウル・メガメガとの記念撮影を行うお披露目会を開催し、翌日から運行をスタート

⑤つつじバスノベルティの作成、イベントにてつつじバスPR

つつじバスプルバックカー&amp;消しゴム



↑プルバックカー作成の様子



消しゴムの配布やプルバックカー作成を実施



↑鉄道ふくいフェスタinさばえ(10/25)でのプルバックカー作成の様子(来場者2,537人)  
当日のつつじバス利用者400人(前年同日190人)

↑お披露目会  
新聞記事Instagramでの  
情報発信

instagram  
@Sabaecity.  
Kokyokotsu

つつじバス  
や公共交通  
のPR、イベ  
ント情報等  
幅広く発信



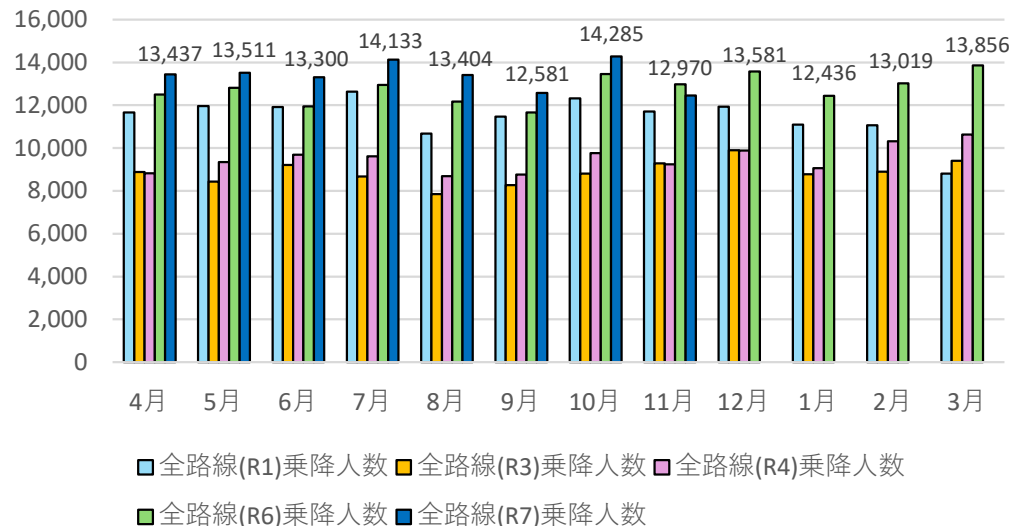
### 3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察（1/2）

5

評価指標・現況値・目標値			達成状況					考察
			1年目 (R4)	2年目 (R5)	3年目 (R6)	4年目 (R7)	5年目 (R8)	
つつじバス 年間利用者数	14.4万人 (H30年度)	17万人 (R8年度)	113,806人 (R4.4～ R5.3)	136,120人 (R5.4～ R6.3)	153,352人 (R6.4～ R7.3)	107,102人 (R7.4～ R7.11)		R4.4に実施したダイヤ改正の定着に伴い、利用者利便性向上や新規利用者獲得に向けた取り組みにシフト。昨年に引き続き利用者増加傾向。 (対前年度比106%で推移) 参考値：R3年度実績 106,351人
福井鉄道福武線 市内駅利用者数	47.4万人 (H30年度)	50万人 (R8年度)	428,515人 (R4.4～ R5.3)	442,632人 (R5.4～ R6.3)	430,562人 (R6.4～ R7.3)	未測定		年度途中のため未測定。運賃や所要時間が要因でハピラインふくいに流れているため昨年度より減少。定期外のイベント時の利用者は増加傾向。 参考値：R3年度実績 407,237人
利用者1人 あたり 公的資金投入額 (つつじバス)	552円/人 (H30年度)	540円/人 (R8年度)	847円/人	693円/人	554円/人	未測定		年度途中のため未測定。利用者数が増加傾向なことから、昨年に引き続き改善傾向。
公共交通が充実 していると感じ ている人の割合	58.7% (R1年度)	80% (R8年度)	未測定	58.6%	未測定	R8年度測定 予定		目標対しては未達の状況だが、R8年度にもアンケートを実施し、次期交通計画策定の参考とする。
公共交通集落 カバー率	95% (R3年度)	97% (R8年度)	96% (R4.4時点)	96% (R5.4時点)	96% (R6.4時点)	96% (R7.4時点)		R4.4のつつじバス再編に伴い、路線の組み替えおよび新規バス停を設置したため、現況値より向上。R7年度はR4年度から路線変更なしのため、変動無し。
つつじバスポータルサイト(バス どこサービス)ア クセス数	15.7万回 (H30年度)	16万回 (R8年度)	147,504回 (R4.4～ R5.3)	110,191回 (R5.7～ R6.3)	104,443回 (R6.4～ R6.3)	未測定		携帯をよく利用する学生(特に新高校1年生)への周知の強化が必要と業者からの指摘。学生やバス利用の多い高齢者と広く周知を徹底する。 参考値：R3年度実績 126,936回
公共交通利用促 進の市民団体の 活動回数	12回 (H30年度)	15回 (R8年度)	6回 (R4.4～ R5.3)	13回 (R5.4～ R6.3)	14回 (R6.4～ R7.3)	11回 (R7.4～ R7.12)		市民団体がイベント等に出展し利用促進を図る。 (今年度見込み+3回予定) 参考値：R3年度活動実績 3回

## コミュニティバス つつじバス利用者実績（R1～R7）

全路線

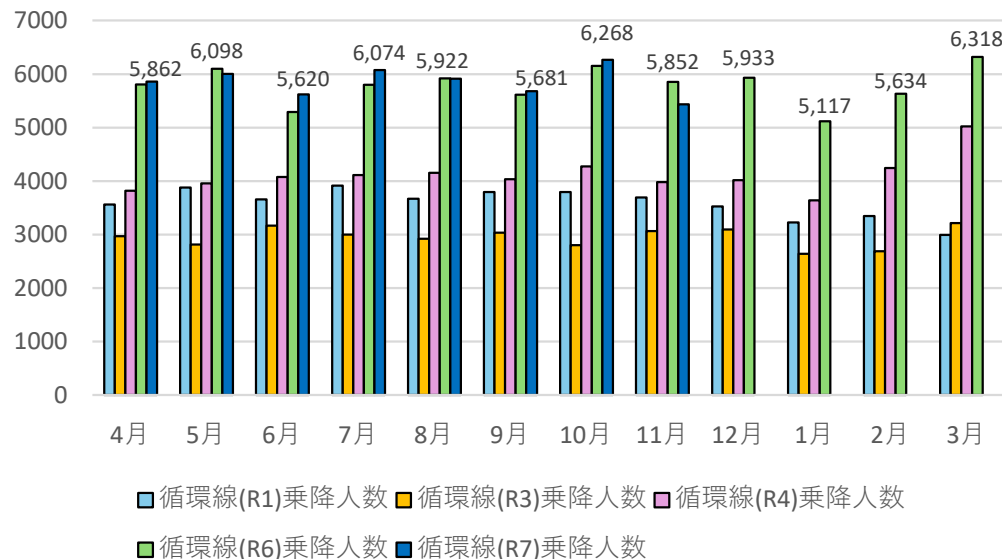


R4.4に再編を行った新しい路線およびダイヤが徐々に定着をしてきており、ほぼ全ての路線において、増加傾向となっている。

再編前のR3年度比で再編後のR4年度は107%  
R4年度比でR6年度については134%の着地。  
R7年度はR6年度比106%で推移している。

このペースで推移すると年間16万人を超える利用者となり、コロナ禍前のR1年度水準(13.7万人)やR6年(15.3万人)を上回る想定となっている。

①循環線



- ・循環線のパターンダイヤ化
- ・各地区路線との接続拠点での接続性向上

上記2つの再編を実施したことにより、再編前のR3年度を大きく超える水準でR4,R5,R6年度着地。  
R7年度も順調に推移しており、増加傾向にある。  
他の路線も増加傾向。

〈主な利用者の声〉

- ・覚えやすく、定時定路線で便利がいい
- ・1周60分のパターンダイヤ化により時刻表を見なくても分かりやすいダイヤになった。
- ・地区から出てきて、市内中心部の施設に行きやすくなった。



評価指標	計画目標の 現在の到達地点	今後の取組方針
つつじバス 年間利用者数	R4.4に路線再編を行い、R4年度の実績は再編実施前(R3年度)と比べ107%となった。その後も対前年比でR5=119%、R6=112%と推移しており、R7年度は16万人を超える見込み。ただし、最終年度の目標に対しては未達の状況である。	<p>★R4.4の路線再編が定着し現在も順調に利用者数が増加しており、引き続き利用者利便性向上や新規利用者の獲得にあわせ、R9年度の新ダイヤに向けての調査を実施していく。</p> <p>具体的な取り組みとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートの実施や、今後予定されているハピラインふくいのダイヤ改正に合わせて、次期公共交通計画を策定する中で、つつじバスのダイヤ改正を検討していく。</li> <li>・つつじバスの利用者層として比較的利用の少ない親子世代をターゲットにしたイベントを開催し、新たな利用者層の獲得を目指す。高齢者サロンも引き続き実施し、バスを利用したことのない高齢者にバス利用を促す。</li> </ul>
福井鉄道福武線 市内駅利用者数	コロナ渦から徐々に回復傾向であったが、ハピラインふくいの開業により通勤・通学者が減少している。令和8年度目標にはまだ遠いためダイヤ改正等を行うとともに鉄道への愛着を醸成し、利用促進につながる対応が必要。	<p>R6年度は、市内6駅を会場としたスタンプラリーイベントを行い、2,000人を超える来場者が訪れ、周辺の飲食店等にも相乗効果が波及された。</p> <p>R7年度は、<u>車両にレッサーパンダのラッピングを行った</u>ほか、福武線貸切ツアーも実施した。ラッピング電車はR10年3月まで運行予定であり、ラッピング電車目当てでの利用も増加。また、本市が実施した関西からのモニターツアーのコース内にラッピング電車乗車や車両基地見学を組み込み人気となった。</p> <p>この他に、<u>鉄道ふくいフェスタinさばえを開催し、2,500人を超える来場者が訪れ、乗車券売上も昨年同日と比較して300人以上増加</u>している。</p> <p>引き続き鉄道利用者の獲得につながる施策等を検討、実施していく。</p>
利用者1人 あたり 公的資金投入額 (つつじバス)	燃料費、人件費等の高騰に伴い、当初計画から大きく隔離している。数値改善のためには、利用者数の拡大と収入額の増加が必要である。	<p>広告料の増加に向けて、R6年度から新たに<u>車両ラッピング広告を導入した。株式会社鯖江村田製作所から応募があり、年間最大100万円の広告料増</u>となる。</p> <p>引き続きその他広告事業についてもHP等で周知を行い、持続可能なコミュニティバス事業を目指す。</p> <p>合わせて、利用者数増に向けて、さらに情報発信を強化する。</p>

評価指標	計画目標の現在の到達地点	今後の取組方針
公共交通が充実していると感じている人の割合	最終年度の目標に対しては未達の状況だが、R8年度に実施予定であるアンケートで目標達成を目指す	地域公共交通計画に定めた事業実施のスケジュールを滞りなく行うことで、目標年度(R8年度)の調査での目標達成を目指し、次期公共交通計画策定の参考にする。
公共交通集落カバー率	つつじバス再編に伴う新規バス停設置により、目標達成が見えてきている。	R5年度に要望のあったバス停移動について、協議の上、R6年度に移動を行った。今回はカバー率の変動はなかったが、引き続きバス停設置の要望については前向きに検討し、利用者利便性向上を図る。
つつじバスポータルサイト(バスどこサービス)アクセス数	バス利用者は増加しているがポータルサイトアクセス数は減少。ポータルサイトを見てもらうことが目的ではないものの、利用者への周知徹底を図りたい。	若年者に向けては、SNS(Instagram)を利用したバス情報の発信を継続することで、周知を図る。 高齢者層については、ポータルサイトの利用が困難な方も一定数いることは年頭に置きながらも、現在行っている高齢者サロンでの出前講座内容を工夫し、ポータルサイトの見方や利用の仕方を紹介する内容を盛り込んだ。 引き続き、来年度についても高齢者サロンを通じてポータルサイトの周知を図るとともに、学生にもSNSやバス車内に掲示するなどして周知を図る。
公共交通利用促進の市民団体の活動回数	公共交通促進のPR対象が主に電車になってしまっており、バス等のPRが足りていない課題がある。	つつじバスブルバックカーなどの作成したノベルティを市内の各種イベント時に使用し、バスへの愛着の醸成を図る。 <u>来年度については、親子向けのバスイベントを実施し、乗車してもらうきっかけ作りや、将来の担い手(運転士確保)の確保につなげる。</u>



年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
前回（令和5・6年度）	利用促進にかかる取組に関して、引き続き多種の媒体による情報発信や、観光関連、子育て、福祉関連など他部門と協力・連携した積極的な施策の展開がなされることを期待します。	令和5年度から引き続きSNSで、コミュニティバスや公共交通、イベント等の情報発信を行い、公共交通の利用促進や市のPRを図っている。フォロワー数は420人を超え、今後も継続していく。他部門との連携に関しては、令和6年度に開催したスタンプラリーイベントでは文化課やこどもまんなか課と連携して約2,000人が訪れるイベントとなった。	令和7年度は、鯖江高校生と連携し公共交通に関する外国人向けのマナーブックを作成し、コミュニティバス車内に設置する予定である。また、協議会の中に、教育部門や福祉部門のメンバーも加える予定である。
	市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統については、引き続き、利用状況の把握等に努め、福井県・沿線自治体・運行事業者等との連携の下、ネットワークの維持や更なる活用に向けた検討・取組が進められることを期待します。	令和6年9月末に福鉄バス福浦線が廃止され、鯖浦線のルートおよびダイヤ調整を行い利用者の利便性の確保を行った。 令和7年12月には学生の移動手段の確保として日中の便の増便を行い利便性の向上につなげる。	ダイヤ改正後の利用状況の把握に努め、バス運転士確保とあわせて利用促進の取り組みを進めていく。

※前回：令和7年3月27日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回 (令和4・5年度)	情報発信や利用促進については、活動回数だけでなく、参加者数などどのくらいの方々に伝わっているかを把握されるよう期待します。	令和5年から実施しているSNSを活用した情報発信については、コミュニティバスの情報に限らず、鉄道等の公共交通や市内イベント等の情報を絡めて発信することで公共交通全体の利用促進を図っている。こういった工夫からフォロワー数も350人を超え、「いいね！」のリアクション数も増加傾向にある。利用促進イベント等についても参加者数は把握しているが、そういった情報を今後の施策にどう反映させていくかが今後の課題となっている。	引き続きSNS等による情報発信を継続し、定期的なリアクションの確認等を行っていく。来年度は親子向けのバスイベントを検討しており、イベント内容と合わせて情報発信方法や集計方法の検討を進めていく。
	日頃コミュニティバスを利用されていない方々に対しては、このバスはどのようなバスで、乗り継ぐといろいろなところへ行けるといった基本的な情報をまとめたチラシによる周知など、分かりやすく伝えていくことを期待します。	コミュニティバスの基本情報については市の広報誌やホームページ等で周知を行っているが、市民にとっては目にする機会が少なく、目立った効果は得られていない。学生等の若年層については、ポータルサイトの充実と情報発信により基本情報の周知に努めている。高齢者層については、地域の高齢者サロンにおける出前講座に力を入れており、地域によって資料を加工し、高齢者でも分かりやすい説明を心掛け、令和6年度も約100人の高齢者に説明を行った。	コミュニティバスの新たな利用者の獲得には、きっかけ作りと同様に分からないことを減らしてあげる工夫が必要と考えており、引き続きターゲットに合う周知手段を検討しながら、情報発信に努めていく。

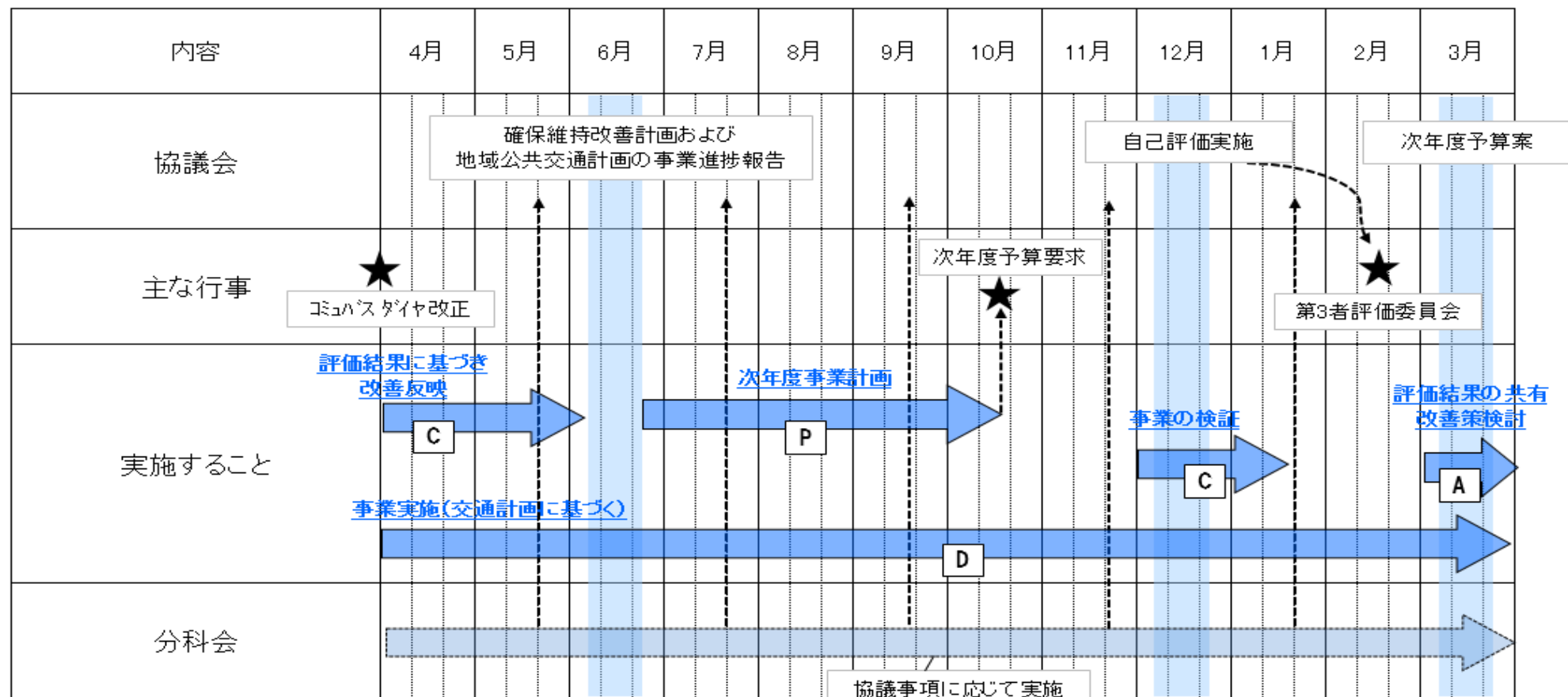
※前々回：令和6年3月21日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和4・5年度)	市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統（特に鯖浦線、福浦線）について、引き続き、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	地域間幹線系統については、市民の広域的な移動手段として必要不可欠なものとなっているが、バス運転士不足等の影響により、福鉄バス福浦線が令和6年9月末をもって廃止となった。 こうした状況を受け、県・関係市町・実施主体とが連携して対策を講じるため、福井県の主導で緊急会議やワーキング等を実施し慎重に協議を進めている。 対応として、福武線利用者への影響を最小限に抑えるため、福井鉄道鯖浦線のルートおよびダイヤの調整により、おおむねの福浦線利用者が鯖浦線に乗り換えることを可能としたほか、福井鉄道神明駅で福井鉄道福武線に接続することで、福井市方面への交通手段を確保した。 これらの対応により、一定の利便性低下は避けられないが、福浦線利用者が鯖浦線に流れることで、鯖浦線単体の利用者数は大きく増加する見込みとなっている。	左記の対応により、利用者の利便性の確保が一定程度図られたものの、バス運転士不足の課題は解決しておらず、現在も市外の広域路線の見直しが続いて進められている。引き続き関係者全体が危機感を持ち、生活路線の確保や利用促進の取組を進めていく。

※前々回：令和6年3月21日



《活性化協議会 年間スケジュール》



## 【協議会の実施状況】(R5年度)

- 第1回 6/26 主な議題：確保維持改善計画  
計画事業の進捗状況報告
- 第2回 8/23(書面) 主な議題：RENEW期間中のタクシー会社の一時的な営業区域外運送の実施について
- 第3回 12/27 主な議題：自己評価の報告案について  
コミュニティバスダイヤ改正案

## 【協議会の実施状況】(R6年度)

- 第1回 6/17 主な議題：鯖江市地域公共交通計画の改定について  
令和5年度決算報告等
- 第2回 8/23 主な議題：RENEW期間中のタクシー会社の一時的な営業区域外運送の実施について
- 第3回 12/27(書面) 主な議題：自己評価の報告案について

## 【協議会の実施状況】(R7年度)

- 第1回 6/23 主な議題：令和6年度決算報告等
- 第2回 8/20(書面) 主な議題：RENEW期間中のタクシー会社の一時的な営業区域外運送の実施について
- 第3回 10/9 主な議題：令和7年度補正予算案について  
鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進実施計画策定について
- 第4回 12/25 主な議題：自己評価の報告案について  
鯖江市地域公共交通計画および鯖江市地域公共交通利便増進計画策定業務選定プロポーザル結果等

## ■事業の実施スケジュール

目 標	実 施 事 業	実 施 主 体	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
1. 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現	(1) 幹線交通の一部再編・運行 (ＪＲ北陸線（並行在来線）、福井鉄道 福武線、福鉄バス 福浦線)	ＪＲ西日本(株)（並行在来線）、福井鉄道(株)					
	(2) つつじバスの再編・運行	鯖江市、つつじバス運行事業者					
	(3) つつじバス車両の更新	鯖江市					
	(4) 公共交通集落カバー率向上	鯖江市、つつじバス運行事業者					
	(5) 外出支援等のためのタクシーの運行・助成	鯖江市、タクシー事業者					
	(6) 北陸新幹線へのアクセス手段の検討	鯖江市、越前市、福井県					
2. まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現	(7) 主要バス停の待合環境の整備	鯖江市					
	(8) 主要乗継拠点でのつつじバス発着情報案内の設置	鯖江市					
	(9) つつじバスのリアルタイム位置情報表示 「バスどこサービス」の継続と利用環境の拡充	鯖江市					
	(10) 運行事業の安定化に向けた企業広告等の推進	鯖江市					
	(11) 障がい者、運転免許自主返納者等へのつつじバス利用者 無料証の交付	鯖江市					
	(12) ＩＣカード乗車券の導入検討	鯖江市、福井県、ＪＲ西日本(株)（並行在来線）、福井鉄道(株)					
	(13) ＪＲ鯖江駅東口改札の設置および周辺整備に向けた 取り組み	鯖江市、福井県、ＪＲ西日本(株)（並行在来線)					
	(14) つつじバスのフリー乗降制の検討	鯖江市、つつじバス運行事業者					
	(15) パーク＆ライドの利用促進	鯖江市、ＪＲ西日本(株)、福井鉄道(株)					
3. 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現	(16) レンタサイクルの利用啓発	鯖江市、一社鯖江観光協会					
	(17) つつじバスの利用料金割引制度 (乗継割引、福井鉄道「プレミアム１日フリー乗車券」との乗 継 割引、回数券)	鯖江市					
	(18) つつじバスの利用料金割引制度の拡充 (1日フリー乗車券の導入)	鯖江市					
	(19) 商店街との連携によるつつじバス乗車券の交付	鯖江市					
	(20) 観光施設等との連携によるつつじバス乗車券の交付	鯖江市					
	(21) バス車内への観光パンフレットの設置	鯖江市、福井鉄道(株)、つつじバス運行事業者					
	(22) つつじバス車内を利用した観光案内	鯖江市、つつじバス運行事業者					
	(23) バス停デザインの更新	鯖江市					
	(24) SNSを利用した情報発信	鯖江市					
	(25) 公共交通乗務員の接客向上	交通事業者					
	(26) 公共交通とまちづくりに関する意識啓発と利用促進	市民団体、企業、交通事業者、鯖江市、福井県					
4. 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現	(27) つつじバス利用促進	鯖江市					
	(28) 自治会によるつつじバス停留所の上屋の設置・管理と 行政による支援	地域住民、鯖江市					
	(29) 公共交通機関としてのタクシーに関する情報発信	鯖江市、タクシー事業者					

■：新規事業 ■：継続事業  
---：検討・調整中 ---：太線：実施

## ■収集するデータと収集方法

計画目標	収集データ	収集方法
<目標１> 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現	幹線交通利用者数	・各交通事業者が対象となる公共交通の利用者数を報告
	つつじバス利用者数	・運行便別に利用者数（乗降バス停、利用券種別）を調査
	タクシーを活用した助成事業の利用者数	・事業主管課から利用状況入手・整理
<目標２> まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現	バス停の整備状況	・バス停の整備状況（案内情報含む）を調査し、整備カルテを作成 ・整備カルテにより現状を把握
	広告収入	・車両、バス停、時刻表等の種別毎の広告収入データを整理
	つつじバス利用者無料証交付数	・障がい者、運転免許自主返納者等への交付数の整理
	パーク＆ライド駐車場利用状況	・福井鉄道(株)が市内各駅のパーク＆ライド駐車場の利用状況を報告 ・ＪＲ鯖江駅東口駐車場については、事業主管課から利用状況入手・整理
	公共交通が充実していると感じている人の割合	・アンケート調査で把握
	公共交通集落カバー率 (鉄道、路線バス、コミュニティバス)	・集落カバー状況を整理
<目標３> 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現	つつじバスポータルサイト (バスどこサービス)アクセス数	・アクセス状況を整理
	バス停の情報案内状況	・上記のバス停整備カルテによって、現状を把握
	レンタサイクル利用者数	・事業主管課から利用状況入手・整理
	つつじバス乗り継ぎ券、回数券の発行数	・乗り継ぎ券、回数券の発行数の整理
	つつじバス学生回数券の発行数	・学生回数券の発行数の整理
	商店街での買い物によるつつじバス無料利用者数	・利用数を整理
	観光施設等の利用によるつつじバス利用者数	・利用数を整理
	SNSを利用した情報発信	・アクセス状況を整理
	公共交通乗務員の接客向上のための教育訓練の状況	・公共交通事業者が該当する教育訓練の実績を報告
	公共交通利用促進のための市民団体の活動回数	・市民団体の活動回数を整理
<目標４> 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現	自治会によるバス停の上屋の設置・管理状況	・本市の助成制度活用状況を整理
	タクシーに関する情報発信状況	・タクシーに関する情報発信状況を整理

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

(別添1)  
令和7年12月25日

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備 内容を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計 画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・ B・ C 評価	A・ B・ C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改 善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組み について広く記載。特に、評価結果を生活交通確保保 持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具 体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ橋	つつじバス  循環線、神明線、片上・中河線、立待 線、河和田線	【前回の評価内容】  (評価できる取組み)  ・市内公共交通の利用促進にかかる周知の取組として、市の観光イベントと合わせた情報発信、 SNSの活用、高齢者サロンでの出前講座の実施など、多様な方法による取組を行っていることを確 認しました。 ・つつじバスの小型バス新デザインによる運行にあたっては、市内こども園児の参加によるお披露目 式差り絵体験、記念撮影の実施、またバス停看板のデザイン刷新に当たっては、市内高校生と協働 でデザインを作成するなど、若年層の関わりを積極的に取り入れることでコミュニティバスへの愛着 の形成に繋げていることを評価します。 ・市内を運行する地域間幹線系統の廃止を受け、沿線住民、とりわけ高校生の通学利便確保のた め、福井県、関係市町等関係者と連携して対策を進められたことを確認しました。	A B C 評価	A B C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目 標・効果が達成されたかを、目標ごとに 記載。目標・効果が達成できなかった 場合には、理由等を分析の上記載】
越前観光	つつじバス  循環線、鯖江南・新横江線、豊線	(期待する取組み) ・利用促進にかかる取組に関して、引き続き多種の媒体による情報発信や、観光関連、子育て、福 祉関連など他部門と協力・連携した積極的な施策の展開がなされていることを期待します。 ・市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統については、引き続き、利用状 況の把握等に努め、福井県・沿線自治体・運行事業者等との連携の下、ネットワークの維持や更なる 活用に向けた検討・取組が進められることを期待します。	令和7年度事業については、概ね地域公共交通計画 に基づいて事業を進めることが出来た。  令和4年4月に実施したダイヤ改正内容の定着し、利 用者も順調に増加しており、利便性の向上や新たな 利用者獲得に向けて幅広い年代層に向けた事業を 行ってきたところである。  令和6年度に、新たにバス車両へのラッピングによる 広告を募集し、株式会社鯖江村田製作所から応募 いただき、ラッピング車両の運行を始めた。8台ある コミュニティバスのうち2台を鯖江村田製作所のチア リーダーロボットとレスラー・パンダの「ウルウル・メガ メガ」がコラボしたかわいいデザインのラッピングを実 施。地域企業のPRとともに、コミュニティバスの安定 的な運行を図るための収入が確保された。	○実績  [R3] R2.10～R3.9 目標 230,900人 実績 107,021人  R4.4.1～ダイヤ改正実施  [R4] R4.4～R5.3(※R3.12に地域公共 交通計画策定、R4.4.1にダイヤ改正を 実施したことによる) 目標 149,200人 実績 113,806人 [R5] R4.10～R5.9 目標 154,400人 実績 124,279人 [R6] R5.10～R6.9 目標 159,600人 実績 144,766人 [R7] R6.10～R7.9 目標 164,800人 実績 159,684人 [R8] R7.10～R8.9 目標 170,000人 実績 人	利用者数については、目標に対しては未達 であるが、令和4年4月にダイヤ改正・路線改 編を行ってから増加傾向であり、目標との隔 離も徐々に減ってきていることから、利用促 進、周知活動を継続することで、更なる利用 者の増加が見込まれると想定しており、最終 年度までに達成が出来る見込みである。  今後の事業内容については、まず、ハビライ ンふくいや福井鉄道福武線の利用状況やコ ミュニティバスとの乗継ぎ状況について把握 に努め、実績や要望に応じたダイヤ改正等 を検討することより、利用者の利便性を損な わないようにする。あわせて利用者アンケ ートを実施し、その結果をもとに次期公共交 通計画やダイヤ改正の協議を進めていく。
鯖江交通	つつじバス  吉川線、立待線	【事業の実施内容】  ①令和5年度から引き続き実施しているSNSを活用したコミュニティバスの情報発信については、コ ミュニティバスの日常だけでなく、福井鉄道や福鉄バス、今年3月から第3セクター化されたハビライ ンふくいなどの様々なイベント情報を絡めて情報発信することで、公共交通全体での利用促進を図 っている。さらに、市の観光イベント等とも合わせて情報発信することで、普段バスを利用されていない 方にも目に触れる機会を創出するよう努めている。そうした取り組みからSNSのつつじバスアカウント のフォロワー数も増加しており、情報を確認しリアクションを取った証拠である「いいね!」の数も増加 傾向にある。  ②(①とも関係するが)日頃コミュニティバスを利用されていない方に対する利用促進の取り組みとし て、地域の高齢者サロンでの出前講座を継続的に実施している。コミュニティバスを利用されたこと がない方からすると、近所のバス停の位置はまでも、バスが来る時間や行先(時刻表の見方)、そ そもいくらでどのように支払うのかなど、わからないことが多いことが利用を妨げている。サロンに おいては、地域ごとに配布資料を加工し、その地区・町内におけるバスの効率的な利用方法につ いて説明を行っており、参加者からも好評をいただいている。今年度は計7回の実施で100人以上の皆 様に説明させていただいている。  こうした情報発信、利用促進の取り組みについては、引き続きより良い周知方法や見せ方などを検 討しながら、継続して取り組んでいく。	B 各種イベントでは今年度作成したつつじバスブル バックカーや消しゴムの配布を行い、つつじバスの PRを行った。ハビライン鯖江駅と福井鉄道神明駅と をつつじバスでつなぐイベント、鉄道ふくいフェスタ 2025inさばえを開催し、当日のつつじバス利用は400 人(前年同日190人)となった。公共交通への愛着の 醸成や利用促進、つつじバスに一度乗ってみるき かけづくりとなった。  また、令和7年度は利用者が16万人を超える見込 みではあるが最終年度の目標に対しては未達であるた め新規利用者の獲得や利便性向上にあわせて、次 期公共交通計画を策定するため、利用者アンケート を実施し、つつじバスのダイヤ改正を検討していく。  コミュニティバスに関する情報発信の面では、令和5 年度からスタートしたSNS(Instagram)を活用した情報 発信を継続した。フォロワー数やいいね! 数も順調 に伸びており、今後も継続して情報発信していく。ま た、高齢者サロンでのコミュニティバス講座も継続 して行い、乗ったことはないが今後乗ってみたいとい った高齢者に丁寧に説明や、利用者のヒアリング、 ポータルサイトの説明等を行い、利便性向上や利用 促進につなげた。今後も継続していく。	※一便あたりの利用者数推移 ○○線 [R3]→[R4]→[R5]→[R6]→ [R7]→[R8] 循環線 [5.99]→[6.94]→[8.11]→[9.46] →[ ] →[ ] 鯖江南・新横江線 [1.26]→[1.55]→ [1.39]→[1.58]→[ ] →[ ] 神明線 [4.13]→[3.24]→[3.78]→[6.17] →[ ] →[ ] 片上・中河線 [3.57]→[2.20]→[2.71]→ [2.81]→[ ] →[ ] 立待線 [4.12]→[3.70]→[4.68]→[4.74] →[ ] →[ ] 吉川線 [5.02]→[4.02]→[4.70]→[5.02] →[ ] →[ ] 豊線 [4.45]→[5.00]→[6.17]→[6.70]→ [ ] →[ ] 北中山・中河線 [1.18]→[1.39]→[1.49] →[1.83]→[ ] →[ ] 河和田線 [5.21]→[4.24]→[4.55]→ [5.03]→[ ] →[ ] 全路線 [4.38]→[4.32]→[5.01]→[5.77] →[ ] →[ ]  ○分析 パターンダイヤ化や各地区路線から市 内循環線への乗継ぎ利便性の向上に より、循環線の利用者数が伸びてい る。 また、昨年度に行ったダイヤ改正(福井 工業高等専門学校の始業時間変更等 に伴う変更)により、豊線の利用者数が 顕著に伸びている。 その他の地区路線においても順調に 推移している。	また、自宅がコミュニティバスのバス停から 離れている等の理由で公共交通を利用でき ていない人のためのコミュニティバスの2次 交通的な役割として、現在自家用有償旅客 運送を展開している。こうした新たな交通手 段を踏まえ、コミュニティバスの行き届かない 範囲をライドシェア等でカバーするような 新たな交通網の整備を計画していく。  新たな交通網の整備計画にあたっては、コ ミュニティバスの自動運転の検討を行い、公 共交通を構築する様々な手段の中から最適 な交通体系を構築していく。  新たな利用促進の取り組みとして、小学生 以下の親子世代をターゲットにしたつつじバ スの洗車体験・タクシー乗車体験イベントの 開催を検討している。バスの洗車やタクシー の乗車で公共交通に興味を持ってもらい、 公共交通全体の利用を促進するだけでなく、 将来の担い手(運転士確保)の確保にもつな げる。  こうした新たな取り組みとあわせて、これま で一定の効果を上げてきたSNSを活用した 情報発信や高齢者サロンでの出前講座等につ いては継続して実施し、幅広い年齢層に 利用していただけるコミュニティバス事業を 目指す。
鯖江高速観光	つつじバス  循環線、神明線、片上・中河線、北中 山・中河線、河和田線	③地域間幹線系統については、市民の広域的な移動手段として必要不可欠なものとなっているが、 バス運転士不足等の影響により減便が相次ぎ、福鉄バス福浦線が令和6年9月末をもって廃線と なった。こうした状況を受け、県・関係市町・実施主体とが連携して対策を講じるため、福井県の主導 で緊急会議やワーキング等を実施し対応に当たっている。市内を運行していた福浦線については、 越前町民や鯖江市民が福井市に出る移動手段として利用するほか、福井県立丹生高等学校の生 徒の通学手段として利用されていた。利用者への影響を最小限に抑えるため、同じく越前町から鯖 江市へ走る福井鉄道鯖浦線のルートおよびダイヤを調整し、通学通学の時間帯の便を強化したほ か、福井鉄道神明駅から福井市への朝の鉄道便を増便し、神明駅から鉄道利用で福井市に出る移 動手段を確保した。さらに、丹生高校生徒の通学時間帯と合わせたダイヤ、ルートとすることで、学 生の既存利用者にも最小限の影響となるように調整した。これらの対応により、多くの福浦線利用者 を鯖浦線でカバーすることができるよう考えており、市民の利便性低下は避けられないが、福浦線 利用者が鯖浦線に流れることで、鯖浦線単体の利用者数は大きく増加する見込みとなっている。			



# 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

(別添1ー2)

令和7年12月25日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	生活交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>利用者数の目標については、現状に見合った数値と大きくかけ離れてしまっていたため、R3.12に策定を行った地域公共交通計画内にて、R8年度の利用者目標170,000人で再設定を行った。</p> <p>事業内容については、新ダイヤでの運行開始から3年半が経過し、ダイヤの定着が図られたことから、今後については利用者の利便性向上や新たな利用者の獲得を目指す施策を行う。</p> <p>利便性向上においては、R6.3の北陸新幹線金沢敦賀間開業に伴い、ハピラインふくい線に移行した鯖江駅や北鯖江駅について、R6.4に新鉄道ダイヤに合わせたつつじバスダイヤの改定をおこなっているが、今後も鉄道ダイヤ改正等が計画されていることから、実際の乗継状況も踏まえ、乗継ぎしやすいつつじバスダイヤへと調整を行っていく。また、乗り換え案内やイベント情報など、利用者が求める情報発信をSNS等を中心に発信していくことで、日常生活や観光、ビジネスなど様々なシーンで利用しやすいつつじバスを目指す。</p> <p>新たな利用者の獲得においては、現在のつつじバス利用者層が通勤通学者と高齢者、障害者等に集中しているため、利用の少ない小学生やその親世代をターゲットにしたイベントを実施する。幅広い世代に利用されるつつじバスになることで、長期的に愛され持続していくつつじバスを目指す。</p>